

都市公園の常識を 変革する ワークショップ



KAKAMIGAHARA
かかみがはら
＜岐阜県各務原市＞ パークレンジャー

岐阜県各務原市では、2001年（平成13）に緑の基本計画を定めました。
 緑の基本計画とは、それまで国が主導してきた緑化政策を、
 新たに地域自治体が主体となって進めるためのマスタープランで、
 都市公園整備も含まれたものです。
 全国でこの緑の基本計画がつくられています、
 各務原市は自らの計画を「水と緑の回廊計画」と名づけ、
 パークシステムという理念と、住民が公園を元手に活動を拓げる仕組みづくりに着手しています。
 「緑の回廊計画」ではなく、敢えて「水と緑」と謳った理由を、各務原市都市建設部に聞きました。

公園都市各務原市

岐阜県各務原市は、名古屋から名鉄線に乗って約1時間ほどの距離にある。駅を降りると、ゴォーと飛行機の離発着音が聞こえてきた。ここは航空自衛隊基地があることで全国的に知られた所だ。
 人口は約15万人。高齢化率（人口に占める65歳以上人口の割合）17・7％というのは、現状の日本では若い部類に入るだろう。
 市の南側に木曾川が流れており、境川・新境川、大安寺川が市を貫いて、木曾川に流れ込んでいる。市の水道は100％地下水からの取水だ。住民の水への意識は、高いに違いない。
 各務原市役所を訪ねると、「公園都市」というキャッチフレーズがつけられたパンフレットが置いてあった。



各務原市の水と緑の回廊計画

現況

- 都市公園
- 緑地保全地区・国定公園等
- 山林・ゴルフ場等
- 環境共生検討地区
- 市街化調整区域
- 河川・用水路・ため池
- 幹線道路
- 道路・河川の緑化区間
- 鉄道
- 市街化区域

計画

- 都市公園
- 幹線道路
- 道路・河川の緑化区間



公園都市。

この言葉は、全国の市で使われている。「公園」という言葉の響きの良さも手伝って、緑地整備に力を入れている自治体が好んで使う言葉だ。

ただし、各務原市の場合は少し事情が違う。

自らの「緑の基本計画」に、「水と緑の回廊計画」と名前をつけて、これまで公園整備や緑地整備にはあまり入ってこなかった、水の要素を加えているからだ。それはいい、なぜなのだろうか。「水と緑の回廊計画」と言われても、最初はピンときませんでしたね」と語るのは、各務原市都市建設部水と緑推進課課長の河田敏弘さん。



「水と緑の回廊計画は、2001年（平成13）から始まりました。慶應義塾大学の石川幹子先生にも協力をいただいで、議会の支持を得て進めてきました」と言う。日本の都市公園は、1956年



パークレンジャー団体一覧表 (2006年4月1日現在)

| 団体名 | 会員数 | 主な活動内容 | 活動場所 |
|---------------------|-----|-------------------------------------|-----------------------|
| 漢方キササゲ会 | 20 | 緑化活動・清掃活動 | 市民運動公園 |
| 東部愛花クラブ | 21 | 花苗の植栽及び維持管理 | 市民公園 |
| 鵜沼地区市民公園植栽グループ | 13 | 花苗の植栽及び維持管理 | 市民公園 |
| 蘇原地区市民公園植栽グループ | 18 | 花苗の植栽及び維持管理 | 市民公園 |
| みどりのまちづくり会 | 104 | 枯損木等の伐倒、下刈り、苗木等の植栽 | 新鵜沼台全域 |
| 北町パークレンジャー | 15 | 緑化活動・清掃活動・公共施設利用者のマナー指導 | 尾崎北町内の都市公園及び尾崎中央通り西武 |
| 緑地整備ボランティアグループ林政尾崎会 | 10 | 緑化活動 | 各務原市尾崎地区の学校周辺及び緑地 |
| 鵜沼台みどりの会 | 8 | 緑化活動・清掃活動 | 鵜沼台南第2公園 |
| 中屋敷蓮如緑花会 | 51 | 緑化活動 | 下中屋町地内 中屋川排水路北側畔畔 |
| おざき「緑化推進の会」 | 43 | 緑化活動 | 尾崎校区内の幹線道路沿いの山林 |
| 尾崎南4緑化推進ボランティア | 16 | 緑化活動 | 尾崎南町4丁目地内及びその周辺、斜面の山林 |
| 大安寺川ホタルを育てる会 | 83 | 緑化活動・清掃活動・生物と共生する自然空間の創造 | 大安寺川流域 |
| 14年度西生涯学習会 | 13 | 緑化活動 | 市民公園 |
| 百十郎桜保全ボランティア | 32 | 緑化活動・清掃活動・公共施設利用者のマナー指導 | 新境川堤(馬手橋から中屋大橋までの両岸) |
| 朝日ふれあいの会 | 22 | 緑化活動・清掃活動 | 鵜沼朝日町全域市道 |
| 東組北シニアクラブ | 57 | 清掃活動 | 東町工業団地東公園 |
| おがせ周辺クリーンクラブ | 46 | 緑化活動・清掃活動、芝への散水 | おがせ池周辺の芝広場 |
| 楽遊会 | 22 | 緑化活動・清掃活動 | 市民公園 |
| 飛鳥パークレンジャー | 42 | 清掃活動 | 西屋倉川 |
| 八木山自然の会 | 37 | 緑化活動・清掃活動、公共施設利用者のマナー指導、登山道整備、道標管理等 | 八木山 |
| 緑苑南グリーン会 | 8 | 緑化活動・清掃活動 | 緑苑南公園及び緑苑雑木林周辺の道路・歩道 |
| つつじが丘上池クラブ | 23 | 緑化活動・清掃活動、公共施設利用者のマナー指導、開墾、伐採 | つつじが丘中央公園周辺 |
| 漢方キササゲ会薬草園ボランティア | 24 | 緑化活動・清掃活動 | 那加福祉センター |
| 鵜沼台ソフトボールクラブ | 27 | 清掃活動 | みどり坂及び市内の遊歩道・散歩道 |
| 5丁目おやじの会 | 28 | 緑化活動・清掃活動 | つつじが丘東公園 |
| 徳山陣屋公園フレンドシップ | 31 | 清掃活動・公共施設利用者のマナー指導・公園の案内 | 旗本徳山陣屋公園 |
| 各務原ロータリークラブ | 31 | 清掃活動 | 各務野自然遺産の森 |
| 各務原かかみのロータリークラブ | 17 | 清掃活動 | 各務野自然遺産の森 |
| 各務原中央ロータリークラブ | 31 | 清掃活動 | 各務野自然遺産の森 |
| 各務原ギフチョウクラブ | 18 | ギフチョウの育成 | 各務野自然遺産の森 |
| 南町河川敷公園パークレンジャー | 18 | 清掃活動 | 鵜沼南町河川敷公園 |
| 野口パークレンジャー | 19 | 清掃活動 | 蘇原野口町・蘇原新栄町の道路 |
| かかみ野MTBクラブ | 21 | 清掃活動・公共施設利用者のマナー指導 | 各務野自然遺産の森 |
| 各務野自然遺産の森ボランティア | 42 | 緑化活動・清掃活動・自然体験の維持管理 | 各務野自然遺産の森 |
| いちょう通り花かざり前四 | 10 | 緑化活動 | 那加前洞新町4丁目いちょう通り歩道 |
| 市民の森を育てる会 | 26 | 緑化活動・清掃活動・どんぐりの苗作り | 市民の森(どんぐりの森)、苗場 |
| やくまシニアクラブ | 49 | 緑化活動・清掃活動 | 前渡西町 |
| 川島町グランドゴルフクラブ | 21 | 緑化活動・清掃活動 | リバーサイドオアシス |
| 各務原市釣友会 | 23 | 緑化活動・清掃活動・公共施設のマナー指導 | 東島池公園 |
| 三ツ屋里山を緑にする会 | 14 | 緑化活動・清掃活動・公共施設のマナー指導・自然の再生 | 鉄砲川流域・三ツ屋池下流 |
| 柿沢パークレンジャー | 27 | 緑化活動・清掃活動 | 柿沢公園 |
| 那加中学校ふれこみ隊 | 41 | 緑化活動・ホタルの育成 | 各務野自然遺産の森 |
| ソレイユ早苗通り | 5 | 緑化活動・清掃活動 | 市道ノ南4号 |
| 駅広を愛する会 | 7 | 清掃活動 | JR鵜沼駅前広場内ビオトープ池 |
| 三井東町パークレンジャー | 8 | 清掃活動・公共施設利用者のマナー指導 | 市民運動公園(三井東町) |
| 緑苑ボランティアグループ | 44 | 清掃活動 | 緑苑地内の公園・道路・緑道・小中学校 |
| 会員総数 1286 | | | |

まちの風景はパークレンジャーと呼ばれる市民ボランティアがつくっている、といっても過言ではない。公園、緑道、山の中にまで、パークレンジャーの手が入っている。左ページの写真はすべて各務原市からお借りしたパークレンジャーの活動の様子。

「水と緑の回廊計画」については、各務原市のHPの内容と進捗で紹介している。

公園を管理するのはパークレンジャー

（昭和31）に施行された都市公園法に則った公園の種類で、何度かの公園整備等五箇年計画が定められ、種類も拡充し、整備されてきた。国の整備方針にしたがって公園の敷地や緑地の面積を増やすのが公園行政担当者の仕事だった。

ところが、2004年（平成16）の「景観緑三法」成立以降は、住民を主人公にした緑の基本計画を策定し、緑地も都市公園も統一的に住民の役に立つように計画・実行する立場に変わったのである。

（くわしくは45ページ参照）

公園行政担当者も、それまでと比べて考え方を180度転換する必要が生じた。いかに市民の求めに応じた都市公園を整備するかが河田さんたちの腕の見せ所となつたわけだ。

「行政だけで公園を管理するのは」

この新境川の堤防は桜並木で、花見の名所ともなっている。その横に約6.5haのオープンスペースが広がっている。もともと岐阜大学農・工学部跡地だった所を公園にしたのだが、そのために、すでに都市計画決定がなされていた道路計画を廃止した経緯がある場所だ。さらに、JR名鉄線をはさんで北部には「字びの森」が隣接し、こちらには池やせせらぎがつけられ、気持ちの良い空間となっている。

この市民公園をはじめ、市内の公園を守っているのが、パークレンジャーと呼ばれる市民ボランティアだ。

介されているので、くわしくはそちらを見ていただきたいが、パークシステムをつくるために、市内の各地域を「まちの回廊」「川の回廊」「森の回廊」と役割を意識した計画が策定されている。

(<http://www.city.kakamigahara.gifu.jp/midori/>)

中でも川の回廊は、豊かな緑の帯をつくるとともに、市内の水循環の核となる計画対象として位置づけられている。緑地整備ではなく、水と緑を一体として考えようではないかと謳っているのだ。

このことが象徴的に現れている場所がある。新境川に隣接した各務原市民公園だ。



は限界がありましたから、2001年（平成13）にまず住民のボランティアを30名ほど募りました。市民公園の南東の角にある花壇を、自由に使ってくださいと呼びかけたのです。これをきっかけに、公園ボランティアを登録するパークレンジャー制度ができ、翌年には90人、そして現在は約1300名に増えています。メンバーにはホテルを育てているという中学生もリタイア後の人もいます。川のボランティアも現れています」と河田さんは言う。

基本的には住民自らが部会をつくる等して、あまり行政はしほらないのが原則だ。水路や園路の掃除も率先して行なわれている。

こうしたパークレンジャーが、6年の間に1300名に増えたというのだが、これは、市の人口の0.9%。だが、65〜74歳の人口約15000人に占める割合としては約9%となつて、決して少ない数ではない。ちなみに、パークレンジャー以外にもさまざまな分野のボランティアを合計すると、その数は1万8千人に及ぶという。

新境川のウォークラリー & ワークショップ

パークレンジャーの充実とともに、水と緑の回廊計画も5年が経



パークレンジャーであり、ウォークラリーにも参加した上屋真美さん。

桜並木が美しい新境川の堤防。コンクリートの一部分に植えられている芝は、市の取り組みとして、コンクリートを覆う実験だ。この芝生ですべてのコンクリート護岸が覆われたらさぞかし美しい景観になるだろうが、もしも落水したときには這い上がる手がかりがなくなるので、救助の仕組みや施設などさまざまなことを考える必要がある。このように公共空間をデザインするときは、ワークショップ方式でみんなの知恵を集結させるのも有効な手段ではないだろうか。

芝をよく見ると、下から3割程度、色が違っていている。新境川の水位が上がったときに、水に洗われたからだ。水流が強くなる増水時にも、その力で剥がされなかったということで、芝としてはまずまずの状態という。



過。まちの回廊、森の回廊の整備は成果を挙げつつあるが、残っているのが川の回廊の整備だった。そこで、2006年度は、ボランティアに新境川を歩いてもらい、このオープンスペースの使い方をみんなで考えてもらおうではないかと、「新境川ウォークラリー & ワークショップ」が気候もちょうどよい5月20日、6月17日に開催された。水と緑の回廊計画を一貫して支えてきた慶應義塾大学の石川幹子研究室チームも、このウォークラリー & ワークショップを支援している。

新境川周辺を歩いた、この日の参加者は約200名。4グループが2つのコースに分かれ実際に歩いた後、地図の上に、「自分が発見した魅力」、「課題」、「将来に向けたアイデア」を付箋に記し、貼っていった。

この結果は、今年度末には発表されるが、市民からは「川と公園を一体的に利用したい」というような声も挙がっているという。

実際にウォークラリーに参加した上屋真美さん（73歳）は、子どもころからこの地で育ってきたパークレンジャーだ。

ワークショップに参加した感想として「子どもが親しまれるような水辺にしたい」と語ってくれた。子どもの存在は重要だ。大人た



緑台将棋ならぬ公園将棋はよく見る風景だが、水の流れと木陰がセットという贅沢には、なかなかお目にかかれない。



境川の源流にある各務野自然遺産の森は、パークレンジャーの団体が7つも関わりボランティアの働く姿が見えない日はないそうだ。



なぜ「緑の基本計画に水を加えたのか」という質問に、河田さんはこう答えた。

「各務原市にとって、水は大切な存在です。新境川の源流を公園整備したりして『まちの回廊』や『緑の回廊』が整えられていくことで、水の重要性が一層明確になりました。水のあるところでは、子どもたちが本当に生き生きと遊んでいます。もちろん、大人も同様です。これからは水と緑がキーワードだという手応えを、絶えず市民と一緒に行動することで、実感しているところです」

ちが常識だと思っている点も「なぜ？」と問い、目からウロコを落としてくれる。

また「行政の誘導はありませんでした。正直なところ、行政に対する批判が出ることも覚悟はしていたんですが。公園と川を一体化して整備したいという気持ちも共有できました」と河田さんは言う。

ワークシヨップでの公園づくり

これまで、水の文化学習のコーナーでは何度も「ワークシヨップ」の事例を紹介してきた。ワークシヨップは、経験を共有して意見を出し合う過程を大切にして、徐々

に関係をつくり、発言に対する責任や場における役割を身につけていくという働きを持っている。

各務原市では、公園整備の計画づくりにこのワークシヨップ方式を用いている。

これは、公園づくりにはもってこいの手段と思われる。コミュニケーションという面から見れば、ワークシヨップと公園はたいへんよく似ているからだ。

公園というのは、不特定多数の人が利用するオープンスペースだ。「使い方」を調整しなくてはならない場所ともいえる。その公園を自分たちで管理することで、「苦情を言う」から「自分たちで解決する」へと変っていくのである。

ただ、忘れてはならないのは、ワークシヨップはただ行なえばいいというわけではないということ

だ。各務原の場合でも、もし緑の基本計画という意見を活かす仕組みができていないままワークシヨップが開かれていたらどうなっていただろう。「自分の意見は、どうせ市政に活かされない」と、ボランティアのやる気が失せ、参加者は減っていったかもしれない。

あるいは、石川研究室のような外部の人間が入っていないか。どうだろうか。お互いが遠慮し合いながら、言いたいことも言えずに消化不良のまま終わっていたかもしれない。

地域活動に取り組む人たちのあ

いだには、こんな格言がある。「地域活動がうまくいくには、若者、ばか者、ヨソ者が必要だ」

若者は、新鮮な考えを持つ次の世代。いわば後継者。ばか者とは、しゃにむになつて真剣に取り組む人。そうするとまわりの人が皆、真剣になる。ヨソ者は、自分たちの活動を客観的に判断して、刺激を与えてくれる人だ。言い換えれば、自分たちの常識を疑ってみようというヨソ者がヨソ者だ。

そういうヨソ者が入った今回のワークシヨップで、「川も公園も一緒に整備できれば」という住民の声が出てきた。この声を受けて、市民の支援者である各務原市は、また新たな局面を迎えている。

ワークシヨップの普及は、公園づくりの常識を変え、水と緑の都市公園のつくり方・利用の仕方をも変えるかもしれない。それは、利用者の常識を問い直し、新たな知恵を集めるだけではなく、利用者と行政担当者との関係をも変化させる可能性を秘めている。

これまでの伝統や常識をワークシヨップで変革して、あらたな公園の常識をつくる。いわば革新的継承というこうした方法も、水の文化学習の一つなのだということ、各務原市のケースは教えてくれる。

